

巻頭写真 秋田県大館市池内遺跡の十和田八戸テフラ下の埋没林 (Buried forest under the Towada-Hachinohe Tephra at Ikenai Site, Odate, Akita Prefecture)

縄文時代の遺構を主体とする池内遺跡 (40°15'N, 140°34'30"E) は米代川東方の標高約 65m の台地に位置する。平成 4~6 年度にかけて調査されたが、最後の年度に建設予定の道路面の掘り下げによって約 13,000 年前に十和田火山の大規模噴火によってもたらされた十和田八戸テフラの火砕流に覆われた埋没林が広い面積にわたって見出された。写真 1 は遺跡西側の断面の一部を示すが、写真下部の 200 cm 前後の周期的起伏をもつ化石アースハンモックの表面に、180~250 cm 間隔で直径 25 cm 前後の幹 (白い札がつけてある) が横倒しになっている産状が観察される。その上位には白色の火砕流が見られる。ところどころに写真 3 のような根株が残っているが、幹はすべて横倒しになっており、根株から離れてしまっているものも少なくない。写真 2 では、アースハンモックの凹部にあった木が火砕流になぎ倒され、凸部の斜面に幹が横倒しになっている。大半の幹がおおよそ南南西の方向に倒れているが、反対側の北北東には十和田火山が位置しており、火砕流の流下方向になぎ倒されたことが分かる。すべて針葉樹で、樹種や年輪年代、森林構造など詳細が近く報告されることになっている。 (辻 誠一郎 Sei-ichiro Tsuji)

